

平成 22 年 3 月 31 日現在

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2006～2009

課題番号：18520070

研究課題名（和文） 大江匡房の思想研究

研究課題名（英文） The Research on OE no Masafusa's Thought

研究代表者

吉原 浩人（YOSHIHARA HIROTO）

早稲田大学・文学大学院・教授

研究者番号：80230796

研究成果の概要（和文）：大江匡房の多数の著作のうち、特に思想・宗教・文学研究の基礎となるテキストの校訂と註釈を行い、国立歴史民俗博物館・身延文庫に所蔵される『江都督納言願文集』古鈔本の校訂本文を公刊した。また、大江匡房と同時代の、日宋関係・神觀念・寺社縁起など、周縁諸学についても考究した。さらにその前提となる、慶滋保胤ら撰関期文人貴族の思想・文学的背景、特に勸学会における白居易詩文や仏教思想の受容について闡明した。

研究成果の概要（英文）：Among a lot of writings of OE no Masafusa, I revised and annotated the text, which is the basic of his thought, religion and literary study. I published the revision of *Goutotokunagon-ganmonsyu*(kosyobon), which is owned by the National Museum of Japanese History and MINOBU Bunko pocket edition. Moreover, I also investigated the related studies like the Japan-Song relation, the concept of Kami, and the history of temple and Shinto shrine which is at the same time with OE no Masafusa. In addition, I explained the thought and literary background of the aristocratic writers like YOSHISHIGE no Yasutane in the period of Sekkan, especially the BAI Juyi's poetry and prose and Buddhism thought at the Kangakue, which becomes the premise of the research on OE no Masafusa.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	1,300,000	0	1,300,000
2007年度	500,000	150,000	650,000
2008年度	500,000	150,000	650,000
2009年度	600,000	180,000	780,000
総計	2,900,000	480,000	3,380,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：哲学・思想史

キーワード：大江匡房・慶滋保胤・宗教思想・日本漢文学・日本思想・中国古典籍・国際研究者交流・註釈

## 1. 研究開始当初の背景

大江匡房(1041~1111)は、平安朝院政期最大の思想家・文筆家・政治家で、平安時代全体を見渡しても、僧侶を除いた俗人では、作品の質量とも菅原道真に次ぐ存在である。しかし、その全集さえ刊行されておらず、全体像を見渡した上で大江匡房を論ずることのできる研究者はごく少数である。大江匡房の全体像解明のためには、膨大で難解な作品群を一つ一つ読み解き、基本的なテキストを公刊する必要がある。また、大江匡房は、前時代である摂関期の詩文を積極的に意識しており、その思想・文学の背景を解明する必要があった。

## 2. 研究の目的

本研究は、大江匡房の多数の著作のうち、特に思想・宗教方面の研究の基礎となるテキストの校訂と註釈を行い、その成果をもとに大江匡房の宗教思想や文学的営為を闡明することを、主な目的としている。またその前提となる、摂関期文人貴族の思想・宗教・文学的背景をも探る。

## 3. 研究の方法

大江匡房『江都督納言願文集』全六巻のうち、未翻刻の古鈔本を活字にして公刊する。さらに同書や他作品の本文校訂・読み下し・現代語訳・構造分析・註釈・解説・文献一覧からなる詳細な註釈を作成する。また、匡房の思想の背景を明らかにするため、日宋関係、神観念、寺社縁起など院政期の思想や歴史についても考究する。さらにそれに先立つ摂関期の、思想・宗教・文学・歴史とその背景を総合的に検討する。

## 4. 研究成果

下記内容に関連する論文11編・図書2冊を公刊し、研究発表・講演を、中国・韓国・イタリア・アメリカ・日本の各地で計22回行い、国内外で

評価された。

- (1) 大江匡房『江都督納言願文集』全六巻は、水戸六地藏寺所蔵本が活字・影印として公刊されているが、巻一のみが残闕本の身延文庫蔵本、巻三と巻六の途中までの零本の国立歴史民俗博物館蔵本について、特別に翻刻許可を得て吉原浩人編『古鈔本『江都督納言願文集』』(二松学舎大学21世紀COEプログラム、2009)として公刊することができた。また、『江都督納言願文集』の本文校訂・読み下し・現代語訳・構造分析・註釈・解説・文献一覧からなる詳細な註釈を作成しつつあり、その一端を公表した。
- (2) 大江匡房の文章の一節が、北宋の皇帝に激賞されたという。その伝承の背景を探るため、当時の宋・高麗との関係や、その背景にある『白氏長慶集』序文の受容について考察した。また、中世において大江匡房がどのようにイメージされたか、明らかにした。
- (3) 中国正史の『宋史』日本伝に収載される、日本文人貴族が著した唯一の文章(著者未詳)、すなわち僧裔然の上表文を取り上げ、その背景についての考察と註釈を行った。
- (4) 大江匡房は、『本朝神仙伝』を著すなど、神仙思想に詳しいが、日本漢文学における神仙思想の背景の一端について明らかにした。
- (5) 大江匡房は、『日本書紀』以来、はじめて「仏道」と「神道」の語を対比させて使用した人物であるが、その表現形成の背景を探り、「神道」と「神仏習合」の概念について、思想史的に位置づけた。
- (6) 古代から院政期にかけての、寺社縁起の展開、霊像信仰、菅原道真を祀る天神信仰について考察し、思想や表現の葉池

について検討した。

- (7) 冥界の支配者とされる泰山府君信仰について、大江匡房作品を含む平安朝日本漢文学と、『今昔物語集』における用例を精査し、その展開について解明を試みた。
- (8) 本研究開始当初はあまり意識していなかったことであるが、撰関期文人貴族における、勸学会などの仏教法会と、白居易の詩文・仏教思想が、大江匡房に大きく影響を及ぼしていることを、校訂・註釈作業の進展とともに、強く認識した。そのため、匡房の曾祖父大江匡衡をはじめ、大江以言・慶滋保胤・紀齊名ら、撰関期文人の作品を精査する必要が生じた。研究期間の後半は、これら基礎作業に重点的に従事し、まず勸学会で作成された漢詩文について、詳細な訳註を作成しながら、その思想的背景を闡明した。
- (9) 国際交流基金の重点支援対象機関で、中国で二番目に著名な人文学の日本研究組織である浙江工商大学日本文化研究所と、吉原が所長を勤める早稲田大学日本宗教文化研究所は、国際学術交流協定を締結し、研究期間中に4回の国際シンポジウムを共同主催した。その成果の一端を明らかにするため、吉原浩人・王勇共編『海を渡る天台文化』(勉誠出版、2008)を刊行した。
- (10) 今後の展望としては、以下の諸点が挙げられる。

『江都督納言願文集』の初めての註釈書として、山崎誠『江都督納言願文集注解』(塙書房)が、本研究期間終了直前の2010年2月末に刊行された。今後は、この成果を参照しつつ、さらに精確な訳註を公表する必要がある。

大江匡房作品の註釈を公刊できたの

は、期間中の成果のごく一部であり、これらをさらに整理して、本研究の成果として公表する必要がある。

膨大な著作を持つ大江匡房の思想について、いまだ明らかになっていない点が多い。文献の精読により、未解明な部分を検討し、さらに追究する必要がある。

撰関期・院政期文人貴族の、勸学会についての詩文註釈を完成させ、公刊する。

白居易の漢詩文の影響を強く受けているのは、勸学会ばかりでない。菅原道真を祀る大宰府・北野・吉祥院聖廟前で作成された、詩序や願文における白居易詩文の影響を、今後統一的に研究する必要がある。

口頭発表・講演した中には、いまだ活字媒体で公表していないものがある。これらについては、早急に公刊したい。

今回の科研費により、中国・韓国・台湾・香港・ベトナム・タイ・ドイツ・イタリア・イギリス・オランダ・アメリカ・フランス・ノルウエーなどの日本学研究者と親交を深め、情報を交換することができた。今後は、さらに世界的規模で共同研究を進める必要があろう。

## 5、主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計11件)

- 1 吉原浩人「高階積善勸学会詩序考 白居易詩文と天台教学の受容」高松寿夫・雋雪艶編『日本古代文学と白居易王朝文学の生成と東アジア文化交流』勉誠出版 pp126-165 2010 査読無
- 2 吉原浩人「紀齊名勸学会詩序訳註」『早稲田大学大学院文学研究科紀要』第55輯第

- 1分冊 pp3-15 2010 査読有
- 3 吉原浩人「慶滋保胤「晩秋過參州薬王寺有感」詩序訳註 白居易詩文撮取の方法(二)」 『水門 言葉と歴史』第21号 pp178-187 2009 査読有
- 4 吉原浩人「大江匡房『白河院金字一切経供養願文』訳註」 『2008年国際シンポジウム報告書 仏教声楽に聴く漢字音 梵唄に古韻を探る』 二松学舎大学21世紀COEプログラム pp132-147 2009 査読無
- 5 吉原浩人「慶滋保胤「何処堪避暑」詩序訳註 白居易詩文撮取の方法(一)」 『日本思想文化研究』第2巻第1号 pp1-18 2009 査読有
- 6 吉原浩人「慶滋保胤勸学会詩序考 白居易との関連を中心に」 吉原浩人・王勇編『海を渡る天台文化』 勉誠出版 pp251-280 2008 査読無
- 7 吉原浩人「寺社縁起としての『北野天神縁起』」 竹居明男編『北野天神縁起を読む』 吉川弘文館 pp108-125 2008 査読無
- 8 吉原浩人「大江匡房の中世像」 『中世文学の回廊』 勉誠出版 pp146-156 2008 査読無
- 9 吉原浩人「古代文芸と唱導 大江匡衡秀句創作の背景と評価をめぐって」 『国文学 解釈と鑑賞』第72巻第10号 pp124-132 2007 査読無
- 10 吉原浩人「『江談抄』 大江匡房の高麗返牒自讃談話をめぐって」 『国文学 解釈と鑑賞』第72巻第8号 pp53-60 2007 査読無
- 11 吉原浩人「現光寺(比蘇寺)縁起から善光寺縁起へ 霊像海彼伝来譚の受容と展開」 福田晃・廣田徹通編『唱導文学研究』第5集 pp5-33 三弥井書店 2007 査読無

〔学会発表〕(計 22 件)

- 1 吉原浩人「日本漢文学と『今昔物語集』にみる泰山府君」 北京日本学研究中心・立教大学日本学研究所・今昔の会主催国際シンポジウム「東アジアの『今昔物語集』と 予言文学」 中国北京市北京日本学研究中心 2010.3.20 招待講演
- 2 吉原浩人「楊柳観音と月蓋長者 日中『請観音経』受容の諸相」 舟山市普陀山風景名勝区管理委員会・浙江工商大学日本文化研究所・早稲田大学日本宗教文化研究所・香港鳳凰衛視有限公司主催、浙江省中日関係史学会共催「東アジアの観音信仰」国際学術シンポジウム 中国浙江省舟山市普陀区普陀山祥生大酒店 2009.11.15 招待講演
- 3 吉原浩人「『本朝続文粹』の勸学会詩序をめぐって」 第二十八回和漢比較文学学会大会 國學院大學 2009.9.27
- 4 吉原浩人「勸学会研究の問題点」 浙江工商大学日本文化研究所・関西大学文化交渉学教育研究拠点主催「東アジア文化交流 学術論争の止揚をめざして」国際シンポジウム 中国杭州市浙江工商大学日本文化研究所 2009.9.19
- 5 吉原浩人「日本宗教文化研究所の活動と宗教思想史研究」 浙江工商大学日本文化研究所主催、日本国駐上海総領事館後援世界日本研究機構円卓会議「日本研究の地域伝統と国際協力」 中国浙江省杭州市浙江工商大学日本文化研究所 2009.9.18 招待講演
- 6 吉原浩人「高階積善勸学会詩序と白居易」 早稲田大学日本古典籍研究所・清華大学外語系共同シンポジウム「日本古代文学と白居易」 早稲田大学 2009.7.25
- 7 吉原浩人「紀齊名勸学会詩序考 白居易晩年の仏教思想と結衆」 平成二十一年度仏教文学学会大会 佛教大学 2009.6.7

- 8 吉原浩人「『宋史』日本伝の裔然上表  
文をめぐって」 コロンビア大学バー  
ナード学院アジア中近東文化学部・同東アジ  
ア言語文化学部・浙江工商大学日本文化研  
究所・関西大学文化交渉学教育研究拠点共  
催「東アジアの文化遺産 その普遍性と独  
自性」国際シンポジウム」 アメリカ合  
衆国ニューヨーク市コロンビア大学バー  
ナード学院 2009.5.9 招待講演
- 9 吉原浩人「六朝隋唐時期江浙海域的靈像  
漂流伝説」 「舟山普陀与東亜海域的文化  
交流」国際学術研討会 中国寧波市寧波大  
学賓館興昌大酒店 2009.1.10
- 10 吉原浩人「平安朝文人貴族の信仰と白居  
易 天神・菅原道真を媒介として」 二  
〇〇八 二〇〇九年度第五回定例読書会  
中国杭州市浙江工商大学下沙校区日本  
文化研究楼 2008.12.2 招待講演
- 11 吉原浩人「平安朝文人貴族的信仰と白居  
易」 清華東亜文化講座二〇〇八年十一月  
特別講座 中国北京市清華大学甲所 200  
8.11.29 招待講演
- 12 吉原浩人「Religion and Literature at  
Kisshoin: Michizane's Prayer Texts an  
d Poetic Gatherings at a Shrine to hi  
s Spirit」 ヨーロッパ日本研究協会 (E  
AJS) 総会 イタリアレッチェ市サレン  
ト大学 2008.9.22
- 13 吉原浩人「中国の「神道」から日本の「神  
道」へ」 東アジア宗教文化学会創立記念  
国際学術大会 韓国釜山市東義大学校国  
際館 2008.8.2
- 14 「裔然入宋時の詩序と願文 慶滋保胤の  
餞別と母のための逆修」 「東アジア文  
化交流 人物往来」国際シンポジウム 中  
国杭州市杭州湾大酒店 2008.7.27
- 15 吉原浩人「「神道」と「神仏習合」の概  
念をめぐって 研究の現状と展望」 中  
国社会科学院日本研究所・浙江工商大学日  
本文化研究所共同主催第二回中国大学教  
員「日本歴史文化」高級講習会 中国杭州  
市杭州湾大酒店 2008.7.24 招待講演
- 16 吉原浩人「平安朝日本漢文学における天  
台山の形象」 早稲田大学日本宗教文化研  
究所・浙江工商大学日本文化研究所第三回  
共同シンポジウム「海を渡る天台文化」  
中国浙江省天台県天台賓館2008.5.31  
基調講演
- 17 吉原浩人「世界最初の仏像の東漸 優填  
王思慕像の中国・日本への伝来とその信仰」  
中国杭州市浙江工商大学国際教育セン  
ター会議室 早稲田大学日本宗教文化研  
究所・浙江工商大学日本文化研究所第二回  
共同シンポジウム「越境する文化」 2007.  
12.22 特別講演
- 18 吉原浩人「浪に浮かび来る仏像 東アジ  
アにおける靈像漂着譚の再検討」 遣隋  
使・遣唐使千四百周年記念国際シンポジウ  
ム「東アジア文化交流の源流」 中国杭州  
市杭州湾大酒店 2007.9.15
- 19 吉原浩人「平安朝漢文学における茅山の  
形象」 早稲田大学日本宗教文化研究所・  
浙江工商大学日本文化研究所交流協定締  
結記念第一回共同シンポジウム「神仙伝・  
高僧伝の流伝と展開」 中国杭州市浙江工  
商大学 2006.12.15
- 20 吉原浩人「名は宋朝にほとばしる 大江  
匡房の對外意識」 「ブックロードと文  
化交流 日本漢文学の源流」国際学術シ  
ンポジウム 中国杭州市華北賓館 2006.  
9.16
- 21 吉原浩人「自讃の文学 大江匡房の自作  
四十九日願文を中心に」 国際シンポジ  
ウム「世界における日中文化と文学」 中  
国長春市東北師範大学 2006.9.1 基調  
講演

22 吉原浩人「八幡信仰史上における大江匡房」 全国八幡宮連合第52回総会 石清水八幡宮青少年文化体育研修センター 2006.6.17 招待講演

〔図書〕(計2件)

- 1 吉原浩人編著『古鈔本『江都督納言願文集』』 二松学舎大学21世紀COEプログラム 2009 全77頁
- 2 吉原浩人・王勇共編著『海を渡る天台文化』 勉誠出版 2008 全444頁うちpp7-14, pp251-280執筆

6. 研究組織

(1)研究代表者

吉原 浩人 (YOSHIHARA HIROTO)  
早稲田大学・文学学院・教授  
研究者番号：80230796